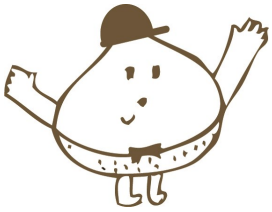
崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第45号



ヘトマト

令和６年 3月１日　発行

1/21(日)、国指定重要無形民俗文化財『ヘトマト』が開催されました。毎年1月の第3日曜日に行われます。白浜神社での奉納相撲に始まり、御幣持ちの世話人を先頭に時の鐘を鳴らしながら行列が歩いて来ます。子孫繁栄を祈願した着物姿の新婚女性による“羽根つき”、ヘグラを塗り付けた若者が藁玉を激しく取り合う“玉せせり”、青年団と消防団に分かれて豊作と大漁を占う“綱引き”と続き、最後に大きな大草履が登場し未婚の女性を次から次へと捕まえてはその上に乗せて胴上げをしました。ヘグラを塗られまいと必死に逃げる子ども達、ヘグラを塗ってやろうと追いかける男性達、大草履の上で楽しそうに胴上げされる女性達、今年のヘトマトも大変盛り上がりました♪

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる
“さっきゃまびと”

Vol.24
2024.3.1 発行
発行責任者
崎山鐙瀬自然を守る会
会長　　古里　幸一
090-2393-1990

・・・・　下崎山地区の河祭りと水神様　・・・・

甘酒入れ作り（ダン竹）

藁苞（わらづと）

井戸の水神様

上崎山地区には無い伝統

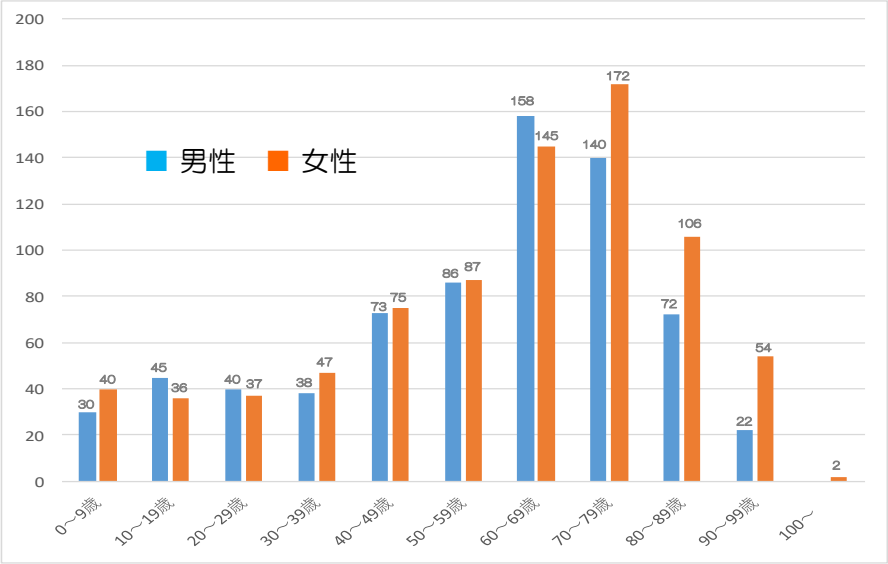
Vol.22 号でも記載したが下崎山・長手地区では現在でも河祭りが行われている。同地区とも天満神社神主さまをお呼びしての行事である。因みに上崎山地区にはない。崎山全体が生活水確保に苦労してきたのに何故上崎山地区にこの行事が無いのか不思議に思っていた。そこで手元にある資料を調べてみた。藁をも掴む思いである。

「庶務課史誌挂事務簿　南松浦郡村誌」明治５年（1872）から明治１１年（1878）郡村改正に至る資料であるが、社に白濱神社、塩津神社があり、塩津神社は由緒不詳とある。ただ、天満神社、五社神社の末社としての記述はない。明治４年４月の「神社取調録」では、五社大神の末社として塩津社、天満宮の末社として白濱神社とある。これは神仏分離の教令が出された後、福江藩に提出された資料と思われるが、氏子ではない上下崎山の村人を、崇拝者として二社に分割したものと考えている。明治２２年（1889）南松浦郡崎山村発足以降、大正７年（1918）崎山村郷土誌が作成されたのだが、その中に当時の神仏に対する村人感情の記載がある。弊習として「佛は信ずれども神を信ぜざるも甚だ多し。従いて神棚を有する家は殆ど稀なり」と。ふと脳裏に浮かんだのは神社でなく、村人の飢餓を救った大通寺との関わりである。郷土誌には、また飲料水として井水・湧水を利用していたとある。塩分濃度や夏場の断水頻度が高い簡易水道から現在の上水道が飲めるようになったのは昭和５１年度（1976）のことなのです。崎山村発足後８７年たっている。

１月７日下崎山地区の河祭りは、早朝から隣保班の皆様のダン竹刈りから始まる。お供え物の準備である。甘酒を入れるダン竹２筒を縄で縛り、藁苞（わらつと）を作りその中にキューリ・煮干し・ご飯入れる。そして紙垂二枚を付けた男結びの結界と御幣。今年は牟田沼、中野の水神様他個人宅にある井戸の神様５７か所を廻った。始まりはわからないが、水のありがたさ、豊作と旱魃水害の恐れに対する村人の切なる気持ち水神様に祈願し祭りを継承する下崎山地区町役員・隣保班の皆様、それを支える奥様達に感謝である。

～ 2月2日（にがんつのふっか）～

2月2日（金）白浜神社にて、春祭りが行われました。今年は数年ぶりに巫女さんの舞やじんじとばんば、天狗や獅子舞いが復活しました。また米寿や還暦の方々による餅まきも行われ、ヘトマトに続き白浜神社は賑わいました。



崎山地区人口統計表

（令和６年１月３１日 現在）

崎山地区高齢者率　49.57％

	１区	２区	３区	４区	５区	６区	７区	８区	９区	１０区	１１区
男	73	73	49	54	59	54	73	99	88	38	44
女	87	81	60	73	68	60	77	103	89	51	52
合計	160	152	109	127	127	114	150	202	177	89	96

崎山地区全体　男 ７０４名　女 ８０１名　計 １，５０５名（先月比－1名）

崎山地区まちづくり協議会　事務局　集落支援員　奥野

五島市役所　崎山出張所内　TEL 0959-73-6389